

佐賀県立博物館報 №.34

佐賀市内 1丁目15番23号 TEL 0952(24) 3 9 4 7



台付鉢

縄文時代後期

長崎県諫早市有喜貝塚出土

高13.5cm 京大考古学陳列館蔵

口縁が四方に弧状の形で広がり、下部には円形の台を付けて安定感を保つなど、器形に変化をもたせ、造形美に富んだ後期の土器で、九州には類例が少ない。

文様は、口縁に連続の刺突文と沈線文とを組み合わせて装飾し、口縁の弧状の頂点には太い刻み目を入れている。底部にも口縁と同様な施文具によって、三条の連続刺突文を施文している。

一方、口縁部には朱色を付着させてあって、文様による施文とは別に、着色によって装飾をするという、新しい手法が見い出せる土器でもある。

この土器は戦前の発掘調査によって発見されたもので、今回の九州の原始文様展に初めて里帰りをした。

目次

● 台付鉢	1
● 「肥前の近世絵画展」の紹介	2
● 「九州の原始文様展」の紹介	3
● 「九州の原始文様展」出品の写真紹介	4～6
● 「九州の原始文様展」の遺跡目録	6～7
● 日誌・行事のお知らせ・図録の紹介	8

「肥前の近世絵画展」

期 間 昭和52年3月5日～3月30日（会期中無休）

会 場 佐賀県立博物館

主 催 佐賀県立博物館

観 覧 料 個人 団体（20名以上）

大 人 250円 200円

大・高生 150円 100円

中・小生 100円 50円

主旨

桃山期にはじまる近世美術は江戸時代へと推移する中で、一方では狩野派を中心とする漢画系統による幕府や各藩の御用絵師集団を形成し、他方では琳派や浮世絵師、あるいは文人画派、写生画派等により市民生活と密着した美術活動を展開している。

当展は、この近世期における肥前出身の画家たちが、どのような絵画活動を行っていたかその代表作を通じて概観し、あわせて肥前に伝承されてきたその他の画家たちの作品についても紹介しようとするものである。

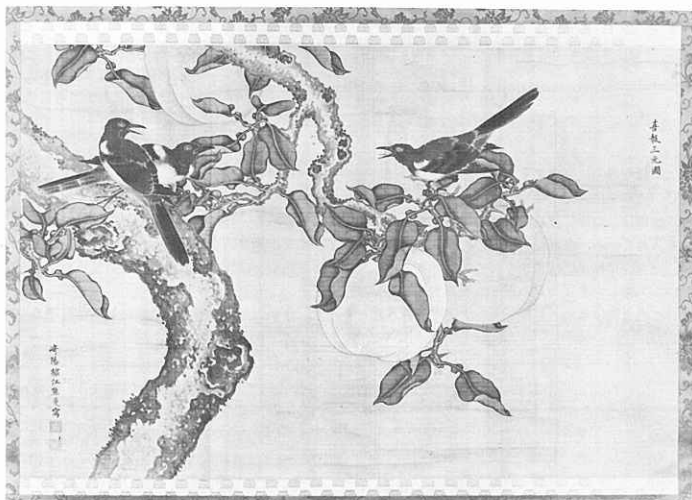
出品内容

肥前出身画家

雲谷等顔・広渡雪山・広渡心海・長谷川雪且・長谷川雪塘・熊代繡江・鉄翁・木下逸雲・草場佩川・古川松根・柴田花守・岸天岳他

その他

狩野永徳・長沢蘆雪・歌川豊国他
（屏風・襖・掛幅・帖等約100点）



「喜報三元図」熊代繡江（熊斐）筆
絹本着彩62.5×93.7cm

九州縄文土器の文様の変遷

— 九州の原始文様展から —

粘土を成形し焼成することにより、「器」の製作技術を学びとったのは今から約12,000年前と推定され、そのもっとも古い土器とされるのが佐世保市泉福寺洞穴遺跡で発見された豆粒文土器である。この土器は豆粒状の粘土を器面に張り付けて文様化を試みている。

豆粒文土器が発見されるまでは、長崎県の福井洞穴遺跡等で発見されている、粘土のヒモを器面に張りめぐらして文様とする手法の、隆線文土器（隆起線文土器）が最も古いとされていたが、豆粒文土器はこの隆線文土器の下の層から出土している。

九州においてこの早期の土器群の中で、もっとも普遍的に分布するのが押型文土器である。この押型文土器は棒状の施文原体に山形や楕円・格子目等の刻みを入れ、これを半乾きの土器面に回転押圧することによって、器面に文様を施文する方法で、土器面に平埤に調整する役割をもっている。

この押型文土器と同様な施文法に捺糸文土器があり、いわゆる縄目の文様の起源でもある。また、貝殻の腹縁を器面に擦痕したり押圧することによって施文する貝殻条痕文土器があり、各種押型文土器と同様に九州一円にその分布圏を有する。

その他の早期の土器に、爪形文・クシ目文等の文様のある土器があり、一部を除いて尖底の器形をなす土器である。

前期の土器文様はクシ歯状の施文具によって、細かい沈線文を器面全体に描くことによって、文様化する土器群が主体となる。この細い沈線文は刺突文と組み合わせられ、幾何形の規則正しい整然とした文様構成となる。

これらの文様を有する土器を出土する標準遺跡に、熊本県の曾畑貝塚・壱の神式土器と称され、前者は西・北部九州に濃密な分布圏をもち、一方朝鮮半島出土のクシ目文土器と対比される。

とくに、佐賀県唐津市の西唐津海底遺跡出土のクシ目文土器とは、文様や製作技術のうえから類似性が対比され、縄文時代前期における半島との交流を考えるうえに良好な資料のひとつといえる。

また、土器の製作技術のうえからみて他の地域・時代と比較して異なり、とくに胎土に多量の滑石粉末を混入しており、早期にはない成形方法といえる。

一方、早期の貝殻条痕文土器の流れが、前期へと受け継がれる土器も存在する。

中期になると、前期の細い沈線文が幾何形に構成され

る文様に対し、沈線文の組み合わせによる方法に変化はないが、この沈線の幅が大形化し直線と曲線それに刺突文との組み合わせとなる。

九州においても、関東の縄文時代中期の土器と同様に、もっとも裝飾性に富み、文様を描くにも力強さがあり、指先もしくは棒の先端・ヘラ状の施文具等によって施文され、その文様は器面全体におよぶものもある。また、土器の形態も縄文時代において最も大形化し、胎土も厚く成形されており、中期は土器文化の最も発達をとげる時代といえよう。

この中期の代表的な遺跡に熊本県の阿高貝塚や南福寺貝塚があり、福年上の基準となっているが、前期同様に佐賀・長崎県においてははや、異なってくる。とくに胎土に多量の滑石粉末を混入し成形されており、滑石粉末を混入しなくなると、次の後期の特色であるスリ消縄文土器が共伴してくる。また、南福寺貝塚や坂の下遺跡等で出土する中期末の土器は、文様が口縁部付近に集約されるようになり、だんだんと退化して次の後期の土器群へと移行してゆく。

後期になると瀬戸内や中国地方の影響を強くうけたスリ消縄文土器が出現してくる。このスリ消縄文土器は、縄文帯・無文帯・沈線によって構成されており、いったん縄文を施文し、施文された縄文を一部スリ消し、このスリ消した無文帯と残った縄文帯との間に沈線を描いている。

その他、鹿児島・宮崎県においては地域的な特色を有する土器が出現し、貝殻腹縁を使用した文様や、市来貝塚出土の土器のように2～3本の平行曲線による文様が分布する。後期末になると精製・粗製の区別をもって土器が製作され、焼成など巧妙を極めてくる。

また器形においても、口縁が波状をなすものや把手を有するもの、さらには台付土器・深鉢・浅鉢・壺・注口土器等と多様性に富み、機能的なものが多くなってくる。

晩期になると器面の文様のそのほとんどがなくなり、器形のうえからすぐれた土器が出現する。とくに浅鉢は黒色研磨の精製された土器で、粗製と精製の差が大きく生じてくる。

晩期末の土器群は縄文土器の中でも、もっとも単純化され、採集経済のゆきずまりとともに次の計画栽培に伴う弥生式土器へと変化してゆくのである。

● 主な出品物



早期 長崎県泉福寺洞穴遺跡



早期 熊本県無田原遺跡



早期 大分県川原田洞穴遺跡



前期 大分県竜宮洞穴遺跡



前期 熊本県曾畑貝塚



前期 熊本県櫛島遺跡



中期 福岡県遠賀川流域



中期 熊本県阿高貝塚



中期 佐賀県坂の下遺跡



後期 宮崎県尾立貝塚



後期 福岡県四箇遺跡



後期 長崎県筏遺跡



後期 鹿児島県池の上遺跡



晩期 熊本県桶団地遺跡



晩期 大分県大石遺跡



晩期 福岡県板付遺跡



晩期 福岡県板付遺跡

縄文土器出品遺跡目録

〔長崎県〕

泉福寺洞穴遺跡	佐世保市瀬戸越町
岩下洞穴遺跡	佐世保市松瀬町
下本山洞穴遺跡	佐世保市下本山町
脇岬遺跡	西彼杵郡野母崎町
江湖貝塚	福江市大津町
有喜貝塚	諫早市六本松町
水月永瀬貝塚	南高来郡加津佐町
宮下貝塚	南松浦郡富江町
志多留貝塚	上県郡上県町
筏 遺跡	南高来郡国見町
深掘遺跡	長崎市深堀町
山の寺遺跡	南高来郡深江町
原山遺跡	南高来郡北有馬町

〔佐賀県〕

盗人岩洞穴遺跡 西松浦郡西有田町
 白蛇山岩陰遺跡 伊万里市東山代町
 伊古石遺跡 西松浦郡西有田町
 戦場ヶ谷遺跡 神埼郡東脊振村
 西唐津海底遺跡 唐津市西唐津
 大門遺跡 佐賀市金立町
 竜王遺跡 小城郡三日月町
 金剛島遺跡 伊万里市黒川町
 坂の下遺跡 西松浦郡西有田町
 源平岩洞穴遺跡 伊万里市黒川町
 寺の前遺跡 東松浦郡相知町
 納富分遺跡 鹿島市納富分
 東分遺跡 小城郡三日月町

〔福岡県〕

門田遺跡 春日市上白水
 深原遺跡 筑紫郡那珂川町
 馬田遺跡 朝倉郡朝倉町
 柿原遺跡 甘木市柿原
 四箇遺跡 福岡市西区四箇
 下楠田遺跡 山門郡高田町
 大道端遺跡 山門郡瀬高町
 坂田遺跡 山門郡瀬高町
 永大丸遺跡 北九州市八幡西区
 坂付遺跡 福岡市博多区
 遠賀川流域 直方市

〔熊本県〕

無田原遺跡 菊地郡大津町
 久保遺跡 鹿本郡植木町
 桑鶴遺跡 阿蘇郡西原村
 沈目遺跡 下益城郡城南町
 轟 貝塚 宇土市宮荘
 曾畑貝塚 宇土市花園
 諏訪原遺跡 下益城郡城南町
 天岩戸遺跡 鹿本郡菊鹿町
 塚原遺跡 下益城郡城南町
 黒橋貝塚 下益城郡城南町
 沖の原貝塚 天草郡五和町
 阿高貝塚 下益城郡城南町
 沼山津遺跡 熊本市秋津町
 大野遺跡 八代郡芦北町
 千原台遺跡 熊本市島崎町
 太郎追遺跡 飽託郡北部町
 三万田東原遺跡 菊地郡泗水町
 御領貝塚 下益城郡城南町
 上の原遺跡 熊本市健軍町
 水源地遺跡 熊本市水源町
 北久根山遺跡 熊本市大江町

御手洗貝塚 菊地郡志志町
 渡鹿貝塚 熊本市渡鹿
 西平貝塚 八代郡竜北町
 乾原遺跡 熊本市長嶺町
 楠 遺跡 熊本市楠田地
 真木遺跡 菊地郡大津町
 水の山遺跡 菊地郡大津町

〔大分県〕

川原田洞穴遺跡 速見郡山香町
 早水台遺跡 速見郡日出町
 菅無田遺跡 大野郡野津町
 政所遺跡 直入郡萩町
 竜宮洞穴遺跡 直入郡柏原
 横尾貝塚 大分市横尾
 粉 洞穴遺跡 下毛郡本耶馬溪町
 六所権現岩陰遺跡 西国東郡香々地町
 小池原遺跡 大分市小池原
 二日市洞穴遺跡 玖珠郡九重町
 大石遺跡 大野郡諸方町

〔宮崎県〕

無田上遺跡 宮崎市跡江
 柏田貝塚 宮崎市生目
 大平遺跡 串間市大東
 下箸方遺跡 宮崎市下箸方
 横市遺跡 都城市横市
 尾立貝塚 東諸方郡綾町
 下北方遺跡 宮崎市下北方
 下弓田遺跡 串間市下弓田
 障内遺跡 西臼杵郡高千穂町
 松添貝塚 宮崎市松添

〔鹿児島県〕

石坂上遺跡 川辺郡知覧町
 出水貝塚 出水市上知識
 前平遺跡 鹿児島市吉野町
 黒川洞穴遺跡 日置郡吹上町
 宇宿貝塚 大島郡笠利村
 池の上遺跡 鹿児島市池の上町
 指宿遺跡 指宿市十二町
 草野貝塚 鹿児島市下福元町
 上加世田遺跡 加世田市上加世田

〔沖縄県〕

渡具知東原遺跡 中頭郡読谷村

(学芸課 森 醇 一朗)

博物館日誌

11月19日	国立歴史民俗博物館 岡田茂弘氏来館	12月10日	「佐賀県学童美術展」開場
11月20日	第26回「佐賀県美術展」開場	12月14日	「佐賀県学童美術展」終了(総観覧者数、1,370名)
11月23日	移動博物館を北方町にて開催(25日まで、総観覧者数 854名)	12月18日	「教職員美術展」開場
11月28日	「佐賀県美術展」終了(総観覧者数9,937名)	12月23日	「教職員美術展」終了(総観覧者数551名)
12月1日	「佐賀県高等学校美術展」開場	12月28日	執務納め
12月2日	国立民族学博物館 谷口康昭氏、本田信一氏来館	1月4日	執務始め
12月5日	常設展「佐賀県の歴史と文化展」開場	1月5日	「九州グラフィックデザイン展」開場
	「佐賀県高等学校美術展」終了(総観覧者数 1,205名)	1月9日	「九州グラフィックデザイン展」終了(総観覧者数 775名)
		1月11日	前間満幸氏(太良町)から、竹崎海底火山、火山弾(約1トン)寄贈。

●行事のお知らせ

	常	設	展
佐賀県の歴史と文化展	52年 12月5日～2月24日	大人 人 50 (30) 大・高生 30 (20) 中・小生 20 (10)	佐賀県の地質や自然および有史時代から、現代にいたる歴史と文化についての、理解を深めるために自然史、歴史、美術工芸の各部門について、系統的に資料を展覧する。

(月曜・祝日の翌日休館) 団体は20名以上 ()内は団体料金

企		画		展	
展	覧	会	期	観	覧
会	名	会	期	料	備
名		期		料	考
九州の原始文様展		1月15日～2月24日		大人 200 (150) 大・高生 150 (100) 中・小生 100 (50)	月曜・祝日の翌日休館
肥前の近世絵画展		3月5日～3月30日		大人 250 (200) 大・高生 150 (100) 中・小生 100 (50)	会期中無料
佐賀大学教育学部	城秀男教授退官記念展	3月6日～3月10日		無料	会期中無休
	土肥春嶽教授退官記念展	3月12日～3月16日		無料	会期中無休
	美術科卒業制作展	3月18日～3月21日		無料	会期中無休
佐賀県勤労者美術展		3月25日～3月29日		無料	会期中無休

●新刊書案内「九州の原始文様」

「九州の原始文様展」の図録として刊行。完形品写真120点、破片写真約500点を含め約270頁。

泉福寺遺跡から出土した日本最古といわれる豆粒文土器(復元)をはじめ九州各県の縄文時代早期から晩期にいたる土器を、時代別、各県別、文様別に分類して掲載している。

また、九州の縄文土器に関する論考や九州各県の縄文時代の研究史を付しているなど学術的資料に供している。額価1,500円(送料は別、総重量900g)

博物館報	第34号
発行年月日	昭和52年2月15日
編集	大園弘
発行	佐賀市城内1丁目15-23 佐賀県立博物館
印刷	日之出印刷株式会社